

# human

No238

2012/2

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために  
ヒューマン(人)と名付けました。



「つばき」

救急指定・労災指定病院	<b>さくら総合病院</b>	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	<b>さくら荘</b>	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	<b>あすかビレッジ</b>	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	<b>あすかビレッジ</b>	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	<b>あすかビレッジ</b>	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	<b>御 嶽</b>	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	<b>太郎と花子</b>	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: [info@ijinkai.or.jp](mailto:info@ijinkai.or.jp)

# 「わが闘争—マヒと戦い—」(第二)

大森 澄雄

脳溢血や脳梗塞を煩った時には、必ずといっていい程マヒが起きる。私は二回、脳梗塞を煩った。この

脳梗塞に伴うマヒと、私は二回戦ったのである。いずれも、当病院においてであった。

そこで、この二回の病状とそれに対する戦いの実状とを報告することに、本稿の紙幅の多くを割きたいと考える。マヒとの戦い、即ちリハビリテーションの仕方を見ていると、人それぞれに少しずつ異なる。その差異は、私にはどうも、人それぞれの生き

方に分岐点があるように思われる。

私は人に「君の生き方は頑固だ」といわれることがある。なぜ、そうなったのか。私が超虚弱児童として育ったことが、大いに関係している。小学校に入学するまでは、毎晩のよう熱を出して近くの病院に担ぎ込まれた。一年生の時には、風邪をひき、肺炎になり、中耳炎を併発して二か月近く入院した。二年生の時には、風邪をひいて厚生病院で診察を受けた時に、医師は「この子の体は」といった。す

かさず父親が「一体いくつ位まで生きられるでしょうか」と尋ねたのを覚えている。驚いてしまった。

私の胸は極端に凹んでいたのである。今では、私のこととを深刻に考えていて、思わず洩らしてしまったことばだと、ふり返ることがある。六年生の時には、旧制中学への進学について両親に相談すると、家では勉強しないこと、落第はしないことが約束出来るなら行ってもよいとのことであった。私の入学した中学校は、一学年三クラスで、一クラス五十五名の

計百六十五名で編成されていた。落第したのは五年生までに、各クラス平均十名の、計約三十名であった。私の不勉強は、七十歳の時に催された同窓会の席で、二年程前に九十八歳の天寿を全うされた先生に「君はよく遊んでいたなあ。今の職業に就くとは想像も出来なかった」といわれたが、同じようなことは、別の機会に他の先生にもいわれたことがある。とにかく先生たちの目に、私は勉強しない生徒として映っていたのである。

学制が変わって、昭和二十四年に新制高校の三年に編入された。体調も悪くなかったので両親に相



談の上、大学に行く予定を立てて勉強した。三月一日の卒業式の日にお茶と駄菓子とで謝恩会が開かれた。家に帰ったところ、激しく吐き、かつ激しい下痢に襲われた。上下覚えなしの日が何日続いた。五月中旬になると、夕方には決まって微熱が出るようになった。厚生病院で診てもらおうと、初期の肺結核であることがわかった。特効薬は既に日本に入っていたが、養生も真剣にした。私の生まれる三年前の昭和三年には、粟粒結核という恐ろしい結核で、中学の二年生と四年生の父親の二人の弟が死んでいた。そして、私の生き方もこの結核になったのを境に決まった。「短いかも知れないが、悔

いのない人生を送ろう」と決心したのである。

—このような人生観を抱くに至った経緯は、主にこれまでに記した多くの病体験にある。それに、小学校の六年生の時（昭和十八年）に戦地に赴かれた先生から、形見として夏目漱石の『草枕』や『坊ちゃん』、国木田独歩の『武蔵野』や『牛肉と馬鈴薯』などの文庫本を貰ったが、これらの作家の影響も多分に加わる。

漱石や独歩の生きた時代の平均寿命は、六十歳に満たなかったかも知れない。前者は五十歳で死に、後者は三十八歳で死んでいる。いずれにしても、二人はともに短命であった。しかし、素晴らしい作品を後世に残した。もっとも、彼らは天才であり、私

は凡人に過ぎない。そして、そのころの私は、凡人には凡人なりに味わうことの出来る満足感もあるはずだという境地に達していた。

—二年間は、専ら療養に務めた。再び大学に行きたいといった時に、父親は大反対であった。母親の取りなしで「一番遊べる学部に行け。まずは命が大事だ」と妥協してくれた。三年遅れて入ったのが、名古屋大学の文学部である。

—一回目の脳梗塞までには、まだ約三十年の歳月がある。むろんその間にも、いろいろな病気に悩まされた。中でも、最も厄介な病気は、緑内障であった。神経質になるのがよくない病気である。が、誰もが

心配で心の落ち着かない病気でもある。或る日私は、ふと学生時代に流行った「ケセラセラ」なるように、なる後のことはわからない」という歌を口ずさんでいた。不安になるといつも、この歌を口ずさんだ。口ずさむうちに、不思議と自然に、不安は消え去るようになった。三年程経って、眼圧は正常に戻った。異常時の私の眼圧は二十三から二十八あった。



## ごあいさつ

皮膚科 夏目 尚子

平成23年12月より皮膚科で非常勤として勤務させて頂いております、夏目尚子(なつめしょうこ)と申します。平成14年に東京医科大学を卒業後、同大学病院に勤務しておりました。

平成23年10月に主人の転勤に伴い名古屋に引っ越して参りました。出身は大阪で現在の実家は宝塚市にあります。愛知県には縁もゆかりもありませんでしたが、名古屋(自宅は東山動物園の近くです!)での生活にも慣れ、1歳になる娘と主人と毎日楽しく、騒がしく?過ごしております。通勤は車でしており、都内の電車生活が長かった身としては、とても新鮮に感じております。(小牧インターの渋滞にはいつも驚かされます、、、)

趣味は体を動かすことです。学生時代はバドミントン部に所属しており、見かけによらず?体育会系です。医師となっても、登山やランニングを続けてきました。特に富士山の頂上からみた朝焼けや、ホノルルマラソンを完走した後の達成感とビールは忘れません。現在は育児のために少しお休み中ですが、体を鍛えなおして、再度フルマラソンに挑戦したいと考えております。

いくぶん頭よりも体が先に動いてしまう私ですが、皮膚科の竹内先生、他科の先生方、周りのスタッフの方のご指導のもと、少しでも地域医療に尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## ★健康を守る教室からのお知らせ★

## 脳卒中検診のご案内

～ 脳卒中検診はじめました ～

脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)は、中高齢者を突然襲う脳の病気です。日本人の死亡原因の第3位を占め、寝たきり患者の約4割は脳卒中が原因です。

しかし、十分な検査と適切な治療を行うことで脳卒中の発症を未然に防ぐことが可能になりました。脳卒中検診は脳卒中予防の最初の一步です。



実施日:毎週月曜日※年末・年始及び祝祭日を除く

予約時間:午後1時、2時、3時

※所要時間は2時間30分程度です

料 金:50,000円

◆健診の結果は、「結果表」にまとめて後日郵送いたします。尚、ご希望の場合は担当医より、健診の結果を説明させていただきますので、検査当日に担当医へご相談下さい。

◆健診の結果により治療あるいは再検査の必要が生じた場合は、当院診療科または希望に沿った 医療機関をご紹介します。

さくら総合病院のホームページから申込が出来ます。

<http://www.ijinkai.or.jp>

ご不明な点のお問い合わせや、電話・FAXでのご予約はコチラまで(医療連携室)

TEL 0587-95-0015 / FAX 0587-95-8624



## とんにちは医事課です

さくら総合病院 医事課 主任 河村 康宏

みなさんこんにちは。医療法人医仁会さくら総合病院 医事課事務員の河村と申します。医事課を簡単に説明させていただきたいと思います。

外来患者さんを対象とする外来部門(本館外来受付・新館歯科口腔外科受付)と入院患者さんを対象とする入院部門があり、それぞれが連携を取り、医事課として総合受付業務・診療報酬業務にあたっています。

総合受付業務においては、さくら総合病院は第二次救急病院として24時間365日救急医療に取り組んでおり、診療も24時間体制で行っています。

診療を行う際の受付、診療費の請求も医事課が対応していますので、患者さんにとって最初と最後に接する職員が医事課の職員となります。

時間内の診察・時間外の診察、時間帯を問わず接遇を第一に考え、挨拶・気配り・心遣いを大切に、患者さんのニーズに応えられるように日々努めています。

診療報酬業務においては、患者さんの治療・医療行為における算定をするために進歩していく医療を日々勉強していかなければなりません。当たり前のことですが、診療内容について算定漏れをなくすように努めています。

医療系のテレビ番組やインターネットの普及により病院の評判や評価といったものが患者さんのメディア利用によって行われる時代となりました。

患者さんの満足度を向上させるのも病院の窓口である医事課の役割であり、また患者さんに選ばれる病院として今後ますます地域医療に貢献できるよう関係部署と協力、連携していきたいと思っています。



## さくら荘での8年間

さくら荘 看護師 木村 ゆみ子

老人保健施設さくら荘で看護師として8年間勤めています。

さくら荘では一人でも多くの方々への在宅復帰を支援しています。

介護が必要な方々の看護や介護を行い、家族と連携を図り日常生活が出来るように日々頑張っています。

又、夜間は医師が不在の為、緊急時はER搬送をしなければなりません。その為、ラウンドをより徹底的に行い早期発見に努めています。

病院勤務からさくら荘へ入職した当初は、慣れない食事介助や入浴介助等、とまどう事が多く不安でしたが、勤めていくうちに仕事にも慣れ、嬉しい事もたくさん増えました。

普段、あまり話されない方の「発語」です。昔の事を思い出して話したり、歌を歌ったり、お世話した後の「ありがとう」の言葉に元気をもらっています。また、一人で食事を摂る事が出来なかった方が、徐々に自力摂取ができるようになって行く姿も嬉しく見守り続けています。

私の8年間の中での一番の驚きは、突然火災報知機のベルが鳴った事です。足がガタガタと震え、私は「絶対に入所者をこのままにしておけない!どうしよう!」と思った事を、火災のニュースを見る度に今も思い出します。

あの時は火災報知機の誤作動で本当に良かった!!しかし現実にあってはならないと思います。

# 診療科表

平成24年2月1日現在

		午 前 9:00～12:00										午 後 5:00～7:30										
診療科目 センター	診療科目 センター	循環器 呼吸器 総合内科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊髄 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	子ども女性疾患 センター		ペイン クリニック センター	皮膚疾患 センター	耳・鼻・ 腎・尿路 疾患 センター	眼の 疾患 センター	消化器病 外傷 センター	循環器 呼吸器 総合内科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊髄 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	子ども女性疾患 センター		ペイン クリニック センター	皮膚疾患 センター	耳・鼻・ 腎・尿路 疾患 センター	眼の 疾患 センター
						こども	女性疾患										こども	女性疾患				
月	○	○	○	○	○	○	受付 11:45迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	9:00～ 11:45	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	受付 17:30～ 19:30迄	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○ 受付 11:30迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 受付 17:30～ 19:30	○	○	○
土	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○											
日	○	○	○	○	○	○	○ ※1															

- ※1 休診日もございます ※2 祝日の診療もございます(9:00～11:00)
- 診療時間に関しては、受診されます診療科目により異なります
- ご不明な点がございましたら、職員に確認してください
- 診療日が変更になる場合があります。ご了承ください

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)  
 human ヒューマン さくら総合病院 発行年月日 2012年2月1日  
 No.238 丹羽郡大口町新宮1-129 発行部数 350部